

各種の事業を展開

7,362万円

一般会計
特別・企業会計

104億7,700万円
105億9,662万円

平成16年度 予算特集

平成十六年度の予算が決まりました。一般会計は百四億七千七百万円（前年度比一・〇％増）、それに、国民健康保険や介護保険などの特別会計と水道や病院の企業会計を合わせた予算総額は二百十億七千三百六十二万円（同比四・九％減）の、前年度以上に厳しい緊縮型の予算となりました。このため、引き続き今年度も経常経費の削減を一層徹底し、健全な行財政運営に努めていきます。

一方で、福祉施策や環境対策、教育振興など、直面する行政課題や多様化する市民皆さんのニーズに的確に対応し、天津小湊町との合併後の将来を見据えて、各種事業の推進に積極的に取り組んでいきます。それでは、今年一年間の予算や仕事のあらましについて見てみましょう。



リフレッシュ
ブレッジ事業

「ふるさと回帰支援センター」の情報を提供に 「田舎暮らし」の情報を提供に

都市住民による大山千枚田の田植え

▽農業振興事業
5億484万円

都市と農村の交流を進め地域の活性化を図るリフレッシュブレッジ事業では、「ふるさと回帰支援センター」を開設して、空き農地や空き家などの田舎暮らしに必要な情報を、都市住民に向けて提供していきます。また、中山間地域の耕作放棄を防ぎ良好な農村環境を保全していくと、中山

▽水産業の振興
県営は場整備は下小原地区を、団体営は松尾寺と花房地区を行います。

▽水産物の振興
鴨川市の沖合約五百メートル、水深四百メートルの「海洋深層水」を取水し、水産・食品・農業分野などに配布、研究開発に活用を図っていきます。

また、栽培漁業の振興にアワビやハマグリなどの種苗放流を進めます。

▽商工・観光の振興
観光では「鴨川温泉」な

▽市道の整備
外沼湯谷線や西山横根線改良のほか、市道舗装や側溝の整備など、市民の生活道路、づくりを進めます。

▽都市計画作成事業
「都市計画マスタープラン」をもとに、用途地域や道路、公園、下水道など都市施設を定めるため、県との協議などを行います。

▽大海多目的公益用地の取得と施設建設の促進

大海多目的公益用地を鴨川市開発公社から計画的に取得していきます。また、同用地には四月に城西国際大学の教育研究施設がオープンします。残る用地の有効活用についても、同大学の観光系学部の誘致を積極的に働きかけていきます。



公益用地はアカデミックなゾーンへ

平成十六年度は第七次総合五か年計画の四年次目にあたりますが、市の行財政健全化プランに基づき、計画された事業であっても改めて投資効果、緊急度、財源措置などを精査した上で

歳入面では経済不況、地価の下落、恒久減税などに伴って市税収入が落ち込むとともに、地方の財源不足を補うため国から交付され

ている地方交付税も大幅に減ってしまいました。また、国の進める構造改革により、一般財源として分配される譲与税や交付金が創設されましたが、わずかな額となっています。

歳入面では経常経費を一層削減し、市財政のスリム化や健全性に努めながら、将来を見据え多様化するニーズに対応しようと、教育や福祉、環境、産業、観光といった施策に限られた財源を有効に配分しました。

「ふるさと回帰支援センター」の設置、鴨川沖海深層水の取水、都市計画の策定、小学校への防犯シ

スタ「開催、ごみ処理の有料化に伴う減量化対策のほか、」ふるさと回帰支援センター」の設置、鴨川沖海深層水の取水、都市計画の策定、小学校への防犯シ

一九億八千万円（同比一八・二％）、教育費九億七千八百五十四万円（同比九・三％）、衛生費七億九千七百四十一万円（同比七・六％）などの順となっています。

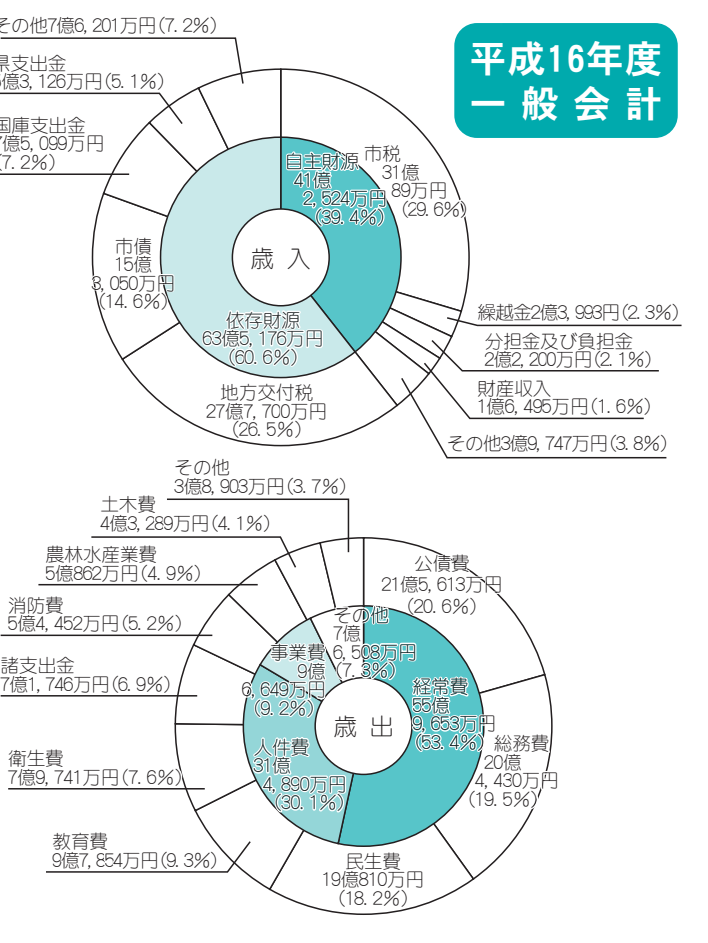
歳入

取捨選択を行いました。一般会計は新年度から学校給食センター特別会計を組み入れたことにより、前年度比一・〇％増の百四億七千七百万円となります。しかし、学校給食センター分とこれまで借り入れた借金の借り換え分を除くと、約九十八億円となり、前年度以上に厳しい「緊縮型」の予算となりました。

歳出

歳入面では経常経費を一層削減し、市財政のスリム化や健全性に努めながら、将来を見据え多様化するニーズに対応しようと、教育や福祉、環境、産業、観光といった施策に限られた財源を有効に配分しました。

の割合では、市税など市の自主財源が三九・四％となる一方で、地方交付税など依存財源が六〇・六％となっています。



平成16年度
一般会計